



2018年度 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員は、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として環境保全活動に対して積極的に取り組んでいる。各社の環境保全活動、環境問題への理解促進に向けた活動、そして事業活動を通じた環境貢献について紹介する。(社名五十音順)

1. 地域における環境保全活動

伊藤忠商事

絶滅危惧種アオウミガメ保全プロジェクト

生物多様性保全活動として2016年度より認定NPO法人エバーラスティング・ネイチャー (ELNA) を通じ、絶滅危惧種に指定されているアオウミガメ保全活動を支援し



卵を保護する様子 (伊藤忠商事提供)



アオウミガメと一緒に記念撮影 (伊藤忠商事提供)

ています。この支援を通じて、SDGsの目標14「海洋生態系の保護」と、目標15「生物多様性損失の阻止」の達成に寄与します。

アオウミガメを取り巻く環境には、産卵地となる砂浜の減少や卵の食害、漁網での混獲、海洋ごみの誤食など、多くの危険が潜んでいます。アオウミガメが約40年かけて成熟する確率は0.2～0.3% (自然のふ化稚ガメの生存率) です。

この活動への理解促進、社員の環境保全への意識醸成のため、2018年8月下旬、日本最大のアオウミガメ繁殖地である小笠原諸島・父島にて「アオウミガメ保全ツアー」を実施しました。当社社員と家族ら10人が参加し、ウミガメ勉強会・甲羅磨き・餌やり・卵の移植・子ガメの放流を行い、小笠原の大自然に感銘を受け、生物多様性の重要性を再認識しました。

伊藤忠丸紅鉄鋼

東京本社・日本橋地域美化活動を実施

伊藤忠丸紅鉄鋼では、2018年11月を「MISI環境CSR月間」と定め、期間中に地域清掃活動、環境CSR講演会、東京本社ビル内インフラ中核設備視察、スマートシティ視察、収集ボランティア活動、および各種社会貢献募金活動等のさまざまな環境CSR行事を行いました。



地域美化活動参加者（伊藤忠丸紅鉄鋼提供）

11月20日、30日には、就業時間前に東京本社のある日本橋^{かいわい}界隈の美化活動を実施し、日頃私たちがお世話になっている地域の早朝清掃を行いました。

参加者からは、「地味なCSR活動ではあるが、世の中のお役に立てて良かった」「早朝の時間帯に、日本橋近辺を歩くだけでもすがすがしいものですが、ごみ拾いという慈善活動を通じ、その良さを実感しました」「私たちが普段多くの時間を過ごしている日本橋を

奇麗にする活動はとてもいいと思いました」「マンネリという声もあるようですが、続けていくことが大事だと思います」等の感想が寄せられ、日頃私たちがお世話になっている地域への貢献を通じ、地域をより理解し感謝する良い機会となりました。

岡谷鋼機 事務所周辺の清掃活動

岡谷鋼機では、地域貢献の一環として月1回始業前30分、名古屋本店および大阪店周



東京エキマチ キラピカ作戦参加者（岡谷鋼機提供）

辺の清掃活動を毎回社員有志20－30人にて各部署持ち回りで実施しています。

また東京本店では、2018年7月19日に第10回「東京エキマチ キラピカ作戦」に参加しました。これは東京駅周辺エリアで働く人等による合同清掃活動であり、今回は全体で82の企業・団体から合わせて約980人が参加しました。当社は2017年11月に行われた第9回以来2度目の参加で、東京本店丸の内中央ビルで働く社員の3分の1超に当たる約60人が参加しました。朝8時から約1時間かけて東京駅周辺にたまった歩道の空き缶やごみ、枯葉などを拾う清掃活動を行いました。暑さの中での活動でしたが、朝から有意義な時間を過ごし、すがすがしい気持ちになりました。今後も清掃活動を通して地域の環境美化のお手伝いを続けていきます。

兼松 国連気候変動会議 (COP24) にて 兼松の森林保全活動の取り組みを発表

2018年12月2－15日、ポーランドで開催された国連気候変動会議 (COP24) において、兼松の森林保全活動の取り組みを発表しました。兼松は、インドネシアの有力財閥と協力して、スラウェシ島にあるゴロンタロ州で焼畑耕作を抑制する「森林保全REDD+プロジェクト」を実施しています。2011年に開始して以来、対象エリアをポアレモ県からゴロンタロ州全域に拡大しながら、とうもろこしの焼畑農業による森林減少が問題になっているこの地域で、それに代わるカカオ農業に取り組んでいます。その実績から今回、日本のREDD+プロジェクトの一つとしてCOP24にて兼松の森林保全活動の取り組みについて発表する機会をいただきました。本プロジェクトは官民連携の気候変動対策とし



COP24での発表の様子 (兼松提供)



インドネシアでのカカオ事業の様子 (兼松提供)

ただでなく、自然環境の保全や貧困農家の生計改善といったSDGsへの貢献を目指しています。

住友商事 バードフレンドリー[®] コーヒー事業 (1杯から始める渡り鳥保全)

当社グループは、生物多様性に配慮し、農家の安定収入にもつながる取り組みとして、2004年からバードフレンドリー[®] 認証コーヒー (以下、BF[®] 認証コーヒー) の輸入・販売を手掛け、2014年度からは住商フーズにてBF[®] 認証コーヒーを取り扱っています。BF[®] 認証コーヒーは、自然林と同様のシェード (木陰) を保ちながら栽培することで、環境保全やそこで羽を休める渡り鳥の保護につながる取り組みです。米国スミソニアン渡り

鳥センターがその認証基準を設定し、現在、中南米を中心に全世界で12カ国49農園・農協（2019年4月現在）が認証を受け、収益の一部は、同センターの



BF[®]認証ロゴマークとコロンビア Agroberlin 農園のコーヒーツリーに作られた鳥の巣（住商フーズ提供）



渡り鳥の研究・調査・保護活動に使われています。住商フーズでは、BF[®]認証コーヒーに加え、有機JAS、フェアトレード、レインフォレストアライアンス、ウーマンズハンドなどの認証を取得し、サステナビリティに配慮した各種スペシャルティコーヒーの販売を拡大しています。

双日 ランチャイム清掃ボランティア活動

2018年度は、計3回のランチャイムに、延べ42人の双日グループ社員が参加し、日比谷公園・飯野ビルディング周辺の清掃活動を行いました。本活動は、同じビルに入居し

ている企業と、2014年度から共同開催しており、地域貢献に加え、他企業社員との交流をきっかけに、社員の社会貢献活動への意識を向上することを目的としています。

参加者からは、「一度体験すると本活動の良さを実感できる」「同居する他企業の方々と清掃を通じて交流が図れ、良い刺激を受けた」「最後に集まったごみの山（袋）を見た時には達成感がある」「この取り組みの輪が広がれば、より有意義になる」等の声が寄せられています。



ランチャイム清掃ボランティア参加者（双日提供）



「植物園 花いっぱいプロジェクト」参加者（豊田通商提供）

豊田通商 東山動植物園主催

「植物園 花いっぱいプロジェクト」への参加

環境分野における社会貢献活動の一環として、2018年11月10日に東山動植物園主催の「植物園 花いっぱいプロジェクト」に参加し、植物園のお花畑(K2ゾーン)にパンジー699株、チューリップ393個を植えました。

本活動は、東山動植物園再生プランの推進に当たり、東山動植物園と企業・団体との協働により、春・夏・秋の年3回開催されており、植物園内のお花畑や花壇を花いっぱいにする事で人がつながり、輪を広げていながら、生命（いのち）をつなぎ、育むことを目的としたものです。今回の全参加者は150

人。うち弊社およびグループ会社社員・家族は48人で、名古屋市に本社がある企業として、東山動植物園再生プランの推進に継続して協力していきたいと考えています。

参加者からは、「普段、自然と触れ合うことが少なく、良い機会になった」「花に興味を持って、花の成長を考えて、間をあけて植えるなど楽しんでいた」「満足度が高く、毎年、家族で参加している」等の感想がありました。

長瀬産業 浜離宮^{こも}菰外し

2019年2月23日(土)中央ぶらねっと(中央区社会貢献企業連絡会)主催の「浜離宮庭園菰外し活動」へ当社グループ社員含め13



菰外し参加者（長瀬産業提供）

人が参加しました。

参加対象は中央ぶらねっと会員企業、中央区在住住民、勤労者で、今年は合計82人が参加しました。この活動は、毎年恒例のもので、庭園内の松を害虫から守るために、冬場に掛けられた菰を啓蟄の頃に外す作業をボランティアで手伝うものです。

当日は庭園職員の方より菰外しの要領（はさみで縄を切り、菰を外して指定の場所に運ぶ）の説明を受け、約1時間半かけて庭園内のほとんどの菰を外しました。また外した際に、菰の中の虫を害虫と益虫に区別をして、益虫は逃がすようにしました。

当社は運営ボランティアとして当イベントに参画し、参加者が安全に楽しく菰外しができるように、準備と進行を行い、無事に作業を終えることができました。

この日は春の陽気で、家族連れの参加者からは子供たちも菰外しの意味が理解できてよかった。来年以降も参加したいので企画を継続してほしいとの意見が多く、満足度の高い内容となりました。

日鉄物産 青山一丁目周辺の清掃活動に参加

日鉄物産では、2018年11月16日および2019年2月15日、東京都港区が主催する「赤坂青山美しいまちマナーのまち」キャンペーンで青山一丁目駅周辺の清掃活動に各回10人が参加しました。

当日は、近隣の会社や団体などからの参加者も含め、総勢約200人が三つのルートに分かれて約45分間の清掃を行いました。国道246号線沿いや青山墓地の近辺など地域の美化に努め、活動後参加者からは、「歩道のごみが気になるなど意識の高まりを実感した」「勤務する街にさらなる愛着が湧いた」



清掃活動の様子（日鉄物産提供）



清掃活動参加者（日鉄物産提供）

などの声がありました（2019年度はさらに同活動への参加者を増やす予定）。

日鉄物産は、企業の社会貢献活動の一環として、また社員の環境保全意識の向上を目的とし、2019年度も積極的に地域社会の活動に参加していくとともに、活動の輪を北海道、東北、名古屋、大阪、九州など全国各支店・グループ会社に広げる予定です。

阪和興業 熊野古道の道普請

2019年1月19日、社員16人が参加し、和歌山県田辺市本宮町の伏拝王子付近において、和歌山県商工観光労働部ならびに世界遺産センターの協力を得て、熊野古道の修復作



土を運び入れる作業（阪和興業提供）



整地作業（阪和興業提供）

業を行いました。

熊野古道は、世界遺産指定の「紀伊山地の霊場と参詣道」であり、熊野本宮大社を中心とした各所を結ぶ参詣道です。日本でも有数の降水量が観測される地域のため、雨による道の損壊が著しく、直し手不足の影響もあり、修復作業による保全が必要となっています。今回の作業では、前回修復地点から続く古道の修復を行いました。土1tを手配し、修復地点に向かう古道入り口近くに準備後、土のうに土を詰め、約270m先の修復地点まで徒

歩で運び入れました。その後、タコ（土を固める用具）にて繰り返したく作業を行い完成します。広範囲の修復が実施でき、達成感とともに活動の大切さを改めて実感することができました。今後も継続した活動にしていきます。

日立ハイテクノロジーズ

「日立ハイテクサイエンスの森」で植樹祭を実施

日立ハイテクグループは、(株)日立ハイテクサイエンス・小山事業所（静岡県駿東郡）内



植樹祭参加者（日立ハイテク提供）

の緑地「日立ハイテクサイエンスの森」(約4万4,000㎡)の里山への再生を目標とした生物多様性保全活動に取り組んでいます。

2018年10月13日(土)に、植樹祭を実施し、日立ハイテクグループの社員有志とその家族、および当事業所が立地する小山町の地元の小・中学生なども招待し総勢97人が参加しました。

来賓などによる記念樹のお手植えの後、参加者による植樹活動を行いました。当事業所敷地内で採取したクヌギやコナラのどんぐりから育てた苗木をはじめ、地域在来種も植樹し、本来の自然林を再生することを目指しています。

また、今回の植樹活動では苗木の成長を願って植樹した樹木にメッセージなどを記入したプレートを取り付け、参加者の思い出に残る活動とすることができました。

「日立ハイテクサイエンスの森」では、人工植林から広葉樹林へ転換し、動植物が生息しやすい環境にしていくため、継続的に生物多様性保全活動を実施していきます。

丸紅 富士山麓にて清掃活動を実施

9月1日、丸紅グループ社員およびその家族・友人56人と、外国人留学生15人が富士山麓にて清掃活動を行いました。外国人留学生の方には、当社が寮の部屋をお貸している関係で(公財)留学生支援企業協力推進協会から参加を呼び掛けていただいています。

今回の活動場所は山梨県南都留郡鳴沢村地区の産業廃棄物不法投棄現場です。

(特非)富士山クラブの指導の下、山梨県が富士山クラブ、産業廃棄物協会と協働で実施する「山梨県富士山クリーンアップ事業」を手



富士山清掃活動参加者(丸紅提供)



田植えの様子（三井物産提供）

伝うことになりました。4班に分かれ、各班の中で、シャベルで土をほぐす係、篩ふるいをふるう係、篩に残ったごみを分別する係、竹ベラでごみを掘る係、集まったごみを集積場に運ぶ係、いずれも重労働でしたが、あまりの量に休憩時間も惜しんで作業に熱中する皆さんでした。

三井物産 谷津田再生プロジェクト

三井物産は、2007年度からNPO法人アサザ基金の協力を得て、耕作放棄によって荒廃した水田を復元し、無農薬・無化学肥料で米作りを行うことで失われた生態系を回復するために、社員ボランティアによる「谷津田再生プロジェクト（茨城県牛久市）」を実施しています。田植え・稲刈り・草取りなどの一連の作業に加え、周囲の里山も整備してお



作業の様子（メタルワン提供）



本プロジェクトで収穫した酒米を使用し醸造した清酒「谷津田」（三井物産提供）

り、年間の活動によってメダカ、ドジョウ、トンボ、バッタなど、さまざまな生き物が生息するようになりました。

2018年度は延べ約200人が参加し、参加者からは「田植えや草取りを経験することで自然や環境への理解が深まった」「米作りの一端を通じて環境や自然の大切さを子供と共に学習できた」など、環境意識向上にも役立ったとの声がありました。本プロジェクトでは収穫した酒米「五百万石」を使用して茨城県内の酒造で日本酒を醸造し、清酒「谷津田」として取引先などに配付しています。

メタルワン 東京本社 環境ボランティア （日比谷公園花壇 植栽）

メタルワンは、2020年の東京オリンピック



植栽活動参加者（メタルワン提供）

クへ向けて東京都が行っている「お花いっぱい事業」への継続的な協力という観点から、日比谷公園内の花壇（呼称：メタルワン花壇）を借り受け、花の植栽をはじめ、花壇の維持・運営活動を実施しています。2018年度の「環境ボランティア」は4月14日に開催し、メタルワン花壇にペチュニアとマリーゴールド約1,400株の花苗を植えました。東京本社ビルに就業する社員・家族36人が参加し、あらかじめデザインされた配置に一つ一つ丁寧に植えていきました。春の陽気を感じられる快晴の空の下、心地よい汗をかきながら、社員やその子供たちはにぎやかに話しながらの楽しい植栽作業となりました。イエローとパープルの色のコントラストが春の気配を盛り立て、日比谷公園を訪れる人を和ませてくださいました。

2. 環境問題への理解促進

岩谷産業

「第13回イワタニ水素エネルギーフォーラム」の開催

2019年3月14日に大阪、4月15日に東京において「第13回イワタニ水素エネルギーフォーラム」を開催しました。大阪・東京両会場とも「水素社会実現に向けた国内外の最新動向」をテーマに各分野から最新の報告・提言が行われました。民間企業・大学・行政等幅広い領域から大阪会場には613人、東京会場には873人が参加しました。

2017年12月に政府より発表された「水素基本戦略」や、2018年7月の第5次エネルギー基本計画、2018年10月の東京宣言の策定、発表を踏まえ、2019年3月に「水素・燃料電池戦略ロードマップ」が新たに発表されました。



水素フォーラムの様子（岩谷産業提供）



2018年10月25日開催Nカレ（テーマ：渡り鳥コアジサシの秘密）の様子（三菱商事提供）

また、国内では、水素ステーションの本格整備を目的とした新会社が設立され、世界では、各国のエネルギー、運輸、製造のリーディングカンパニーが集まるハイドロジェン・カウンシル（水素協議会）が発足し、参画企業も着実に増えてきています。

世界的に水素エネルギー社会実現に向けた動きが活発化する中、今後も、本フォーラムを継続開催することで、水素エネルギー社会の早期実現のため、多くの方々との幅広い情報交換を行っていきます。

三菱商事 環境啓発セミナーの開催

三菱商事はCSR活動を中心とした情報発信基地「MC FOREST」において、2014年から日本自然保護協会（NACS-J）と共に専

門家を講師に迎えて一般参加も可能な環境啓発セミナー「NACS-J市民カレッジ（略称：Nカレ）」を開催しています。

2018年度はおおむね月1回の頻度で計10回（累計75回）開催し、合計456人（うち、社員104人）が参加しました。丸の内というアクセスの良い立地も生かして毎回人気のセミナーとなっています。

テーマは「アリの世界」「キノコの世界」等身近な自然に関するものから、「いけばなの自然観」「酒と肴さかなと日本の風土」等日本文化と自然の関係に関するものまで多岐に及んでいます。

その他にも三菱商事は日本野鳥の会、山階鳥類研究所ともMC FORESTにおいてそれぞれ年1回環境啓発セミナーを共催しています。

